

# 3Rが福祉を向上させる

(2)

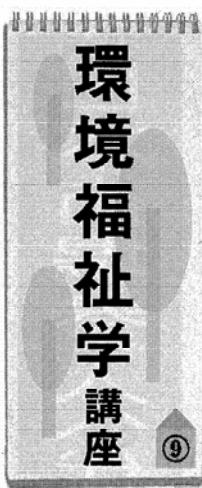
恩賜財団済生会理事長  
学習院大学法学部特別客員教授

炭谷 茂

資源ごみ分別の推進

3Rの2番目であるリユースの番目であるリサイクルの前提になるのが、資源ごみの分別である。混ざればごみ、分ければ資源になる。

ペットボトルは、日本で分別収集が最も成功している事例である。これは10年余りの大変短期間で達成された成果である。容器包装リサイクル法に基づいて市町村によるペットボトルの分別収集は、



環境福祉学講座

2割となっている。人口のカバー率では99・1%となり、今日ではほとんどの市町村で分別収集が行われている。

私たちは、ペットボトルを飲み終えた97年4月から開始された。回収率は97年度では9・8%にとどまっていたが、その後着実に上昇し、07年度には49・4%となっている。市町村以外の事業者等によって回収された量を含めると、回収率は、07年度は89・2%となっている。

政を担当する市町村職員から住民の協力が得られるかを心配する声をしばしば聞く。「こんな細かい分類で分けようと思うとフィロソフィーになってしまつた」「家が狭くて分類して保管できない」「前の市町村とは違う分類になってい」など住民の苦情が絶えない。対応する職員の苦勞は並大抵でないだろう。

力を促進させる要因として、篠木幹子中央大学准教授は「適切な情報や隣人とのコミュニケーション、リサイクルに協力する旨の宣言、環境問題に対する関心や知識、リサイクルに協力した時の満足感、環境に配慮すべきだという規範意識」を挙げている。「よくわかる環境社会学」ミネルヴァ書房91ページ。ま

近年の日本の社会問題は、人々のつながりが脆弱になっていることから発生する。この結果、孤独死、児童虐待、引きこもりなどを増大させている。

かつて日本社会に存在した伝統的な家族・親族や地域のつながりを復活させることは、もはやできない。新たな方法で人々のつながりを再構築しなければならない。これは人為的に行わなければならないが、資源ごみの分別収集

で成功している市町村を見ると、人々とのつながりの形成に役立つという思わぬ効用を示している。

## リサイクルが障害者の就労の核に

私には、地球の資源状況、世界の人口の増大、生活水準の限らない向上等を考えると、資源の再利用は経済性、効果性、効率性などの課題を解決しながら絶対的に推進していくべきであると考えている。

このためには、その前提となる市町村や事業者の経済性、さらには分別収集からリユース、リサイクルまでの工程におけるエネルギー使用や温室効果ガス排出を計算した時の環境面の効果性などから

た、篠木准教授は、多分別制度を採用している名古屋や水俣市の方が、少分別制度の市町村よりも資源ごみの分別実行率がむしろ高いことを指摘している。各種の工夫を行えば、住民の理解や協力は、確実に得られる。

資源ごみの分別は、環境問題に対する住民間のコミュニケーションを増大させる効果を持つ。私が水俣市を訪れた時、市民が熱心な分別に

私は、4年前から日本でソーシャルファームを手社設立しようと活動している。ソーシャルファームは1970年代に北イタリヤで誕生した。障害者、刑余者、ホームレス等の一般労働市場では仕事を獲得することが困難な人の就労の場を作るものである。税金の援助を前提とせずに一般企業と同様にビジネス手法で経営することに特色がある。

ソーシャルファームで作られる製品やサービスは、一般企業と競争しなければならぬので、価格や質が厳しく問われる。ソーシャルファームで働く人は何らかのハンディキャップを有しているのだから、これは難題である。どんな仕事を選擇するかが成功の分かれ道になる。

分別収集を実施した市町村数については、97年度は631市町村で全市町村の19・4%であったが、07年度は1765市町村で全市町村の97・6%となった。

分別収集を最も成功している事例である。これは10年余りの大変短期間で達成された成果である。容器包装リサイクル法に基づいて市町村による

先月30日、私たちは、東京都千代田区の新霞ヶ関ビルで、イギリス、ドイツ、スウェーデン、デンマーク、フィン

次回、日本における具体例を紹介したい。

ソーシャルファームは、日本でもリサイクルなど環境事業を行うところが最も多い。これは偶然の一致ではない。障害者などにとりてリサイクル事業は、その特性に合致し、適切な運営方法を採用すれば、事業として十分に持続可能である。

平成23年2月23日  
環境新聞